

ネギのチェーンポット育苗における定植時薬液灌注処理によるネギアザミウマ防除対策

研究のねらい

ネギ栽培においてはネギアザミウマの効果的な防除技術が求められています。初期防除としては定植時に粒剤を処理するのが一般的ですが、チェーンポット育苗の段階で薬液灌注処理を行うことで、薬剤処理の省力化とともに、定植初期からの防除効果が期待できます。そこで、チェーンポット薬液灌注処理の効果を確認するため、現在登録のある2剤について、同成分の粒剤処理と比較検討しました。

技術の特徴

- 1 チェーンポット育苗したネギに、ジノテフラン水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）50倍液またはイミダクロプリド水和剤（アドマイヤーフロアブル）200倍液を定植直前に規定量を灌注し定植すると、定植初期からネギアザミウマ寄生数および食害度が低く抑えられ、高い防除効果が得られます（図1、2）。
- 2 灌注処理は粒剤処理よりも効果発現が早い傾向があります（図1、2）。
- 3 灌注処理はネギアザミウマ防除効果が少なくとも15日程度得られます（図1、2）。
- 4 定植約1ヶ月後の生育（草丈・葉鞘径）については、灌注処理、粒剤処理ともに無処理を上回ります（表1）。

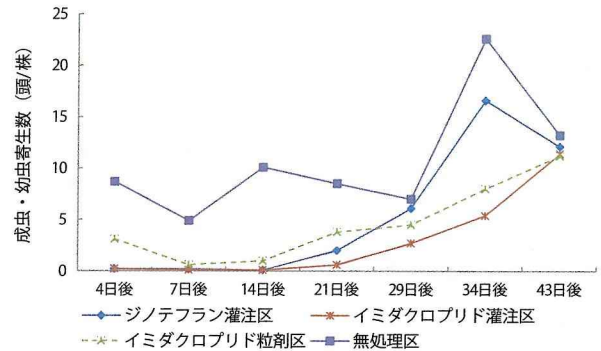


図1 各薬剤処理区におけるネギアザミウマ成虫・幼虫寄生数の推移

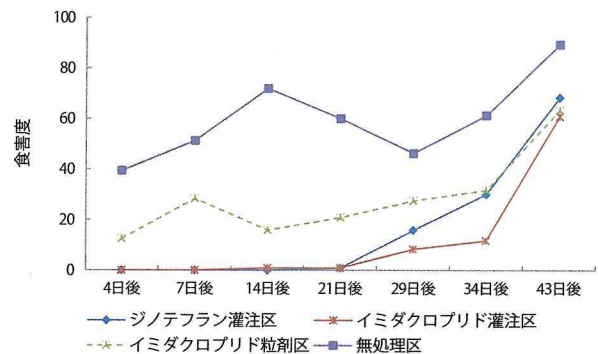


図2 各薬剤処理区における食害度の推移

今後の取り組み

土着天敵を利用したネギアザミウマの防除効果についても検討を行っており、薬剤と組み合わせた防除体系の確立を目指します。

（執筆者：櫻井 まさみ）

表1 定植時の薬液処理によるネギアザミウマ防除がネギの初期生育に及ぼす影響

薬剤処理区	草丈 (cm)		葉鞘径 (mm)	
	21日後	43日後	21日後	43日後
ジノテフラン灌注区	23.4±1.8	35.4±4.0	4.3±0.1	8.9±0.8
イミダクロプリド灌注区	22.4±0.9	31.2±2.7	4.4±0.1	8.7±0.5
イミダクロプリド粒剤区	22.3±1.0	29.5±2.5	3.8±0.1	7.7±0.3
無処理区	15.7±0.8	24.6±1.6	3.2±0.2	6.2±0.2